

日本語の興味－香港の高校生の場合－
Interest in Japanese Language:
Focusing among High School Students in Hong Kong

山下 直子
元国際交流基金 香港日本語教育アドバイザー

要旨

海外における日本語学習の目的として「日本語そのものへの興味」の割合は高い。しかしながら、その興味の対象の詳細は明らかになっていない。本稿では、「日本語そのもの」の興味の対象について香港の高校生へ自由記述式による質問紙調査を実施した。その結果、日本語の興味の対象を「文法」、「文字」、「音」の3つに分類した。香港の高校生に対しては日本語学習への興味、モチベーションを持続させるためにも学習者の興味を生かし「挑戦する」、「日常との関連価値を実感する」ことができる授業内容や学習活動への検討を提案する。

キーワード：香港の高校生、日本語の興味、学習活動、挑戦、日常関連価値

日本語の興味－香港の高校生の場合－

山下 直子

元国際交流基金 香港日本語教育アドバイザー

1. はじめに

国際交流基金の 2012 年度の海外日本語教育機関調査（以下、機関調査）によると、海外の日本語学習者の日本語学習の目的でもっとも選択の割合が高いのは「日本語そのものへの興味」である。また、香港における日本語学習者を対象にした調査（山下ほか 2016）によると、日本語学習の目的は「日本語でコミュニケーションができるようになりたい」、「日本へ旅行に行くため」に続き、「日本語自身に興味がある」は高い割合である。この結果は、2011 年（木山ほか）や 2014 年（宇田川ほか）の調査結果とほぼ変わらない。では、この「日本語そのもの」や「日本語自身」への「興味」とは何か。これまでの調査ではその詳細が明らかにされていない。本稿では「日本語そのもの」の「興味」の対象について明らかにした後、その「興味」を生かしどのように授業内容や学習活動に取り入れるかを考察する。

国際交流基金の 2009 年度の機関調査¹以降、教育段階別に見た日本語教育機関数、学習者数が最も多いのは中等教育機関である。香港においても近年 Hong Kong Diploma of Secondary Education Examination²における日本語受験者数は増加傾向である。これは香港においてコア科目ではない日本語に興味を持っている生徒が増えていると考えられる。また、2015 年度の機関調査では、中等教育における日本語学習の目的・理由は「日本語そのものへの興味」と「マンガ・アニメ・J-POP・ファッション等への興味」が最も高く 93%以上であり、「日本語そのものへの興味」の割合がどの段階教育より高い。そこで、本調査では高校生を対象として実施する。

¹ 2006 年以前の調査では初等・中等教育機関が分かれていないが、その割合は最も高い。
² Hong Kong Diploma of Secondary Education Examination (DSE) とは、中学 6 年生（高校 3 年生）が受ける学力評価試験で、その成績により大学が決まる大学入学のための試験でもある。

< http://www.hkeaa.edu.hk/DocLibrary/Media/FactFigures/2018HKDSE_registrationstat.pdf >
(2018 年 10 月 30 日最終閲覧)

2. 先行研究

これまで動機づけの研究において、高い興味が学習にポジティブな影響を与えることが示されつつも (Hidi 1990)、興味のような内発的な動機づけの中身についてはほとんど分類されてこなかった (田中2015)。そこで、田中 (2015) は、児童・生徒の興味を把握、種類を弁別するための尺度を作成し、理科に関する興味の研究を行った。理科の興味は「感情的興味」として「実験体験型興味」、「驚き発見型興味」、「達成感情的興味」の3つと、「価値的興味」として「知識獲得型興味」、「思考活性型興味」、「日常関連型興味」の3つに分類している。さらに、価値的興味は、必要な知識量が多いと考えられるためより深い興味とし、「思考活性型興味」や「日常関連型興味」を高く有する児童・生徒は意味理解方略を用い、積極的に学習を行う傾向にあることを示している。ただ、いきなり理科の学習内容が身近な現象と関連があることなど学習内容の知識や価値の認知に介入しても効果がなく、まず、浅い感情的興味を喚起し、授業を積極的に受けさせてから、価値の認知に介入したほうがより深い興味を育み、効果的な学習行動につながることを述べている。しかし、この田中の研究における対象は理科であり、海外における外国語としての日本語 (Japanese as a Foreign Language、以下JFL) に対する興味とはどのような違いがあるか明らかではない。日本語教育における「興味」研究は、佐藤 (2017) のメキシコにおける研究である。大学生 (社会人、高校生も若干含む) の日本語学習者に対して、日本語について興味深い、好きだと思えることを自由記述させ、学習歴によってその質的な異なりを分析している。その結果、学習者の興味の対象について学習歴を問わず、「音・文字・表現・文法」の4つのカテゴリーに分けた。各カテゴリーの詳細記述からは「発音や文字などからの興味」、「使用に関連した興味」、「母語や他の外国語との違いからの興味」、「複雑さや難易度に関連した興味」など下位分類した。メキシコの学習者において、日本語の複雑さや困難さに挑戦することを生かすような学習内容や活動の設計の必要性を述べている。JFL 環境の日本語学習者として社会的に必要性が低い言語環境という点では、香港も同じJFL 環境と言えよう。佐藤の主な対象者は大学生 (社会人高校生も若干含む) であったが、香港における高校生はどうであろうか。

3. 調査概要

本調査は、2017年7月に香港の高校で日本語を履修している1年生から3年生までの47名に対して質問紙による調査を行った。質問は「日本語はどんなところ

が面白いか。どんなところが好きか」を自由記述式で行った。質問は日本語と中国語（繁体字）で作成したものを使用し、中国語で書かれた回答は日本語訳をした。

本調査分析には樋口のKHcoderを使用した。自由記述（テキスト）データの中から語を自動的に抽出、集計・解析することで、データを客観的に可視化する。その内容や特徴を分析するためには、KH Coderのツールの中から、「抽出語リスト」と「KWICコンコーダンス」を使用し、興味の対象を分類した。

4. 調査結果と分析

4.1 抽出語リスト

抽出語リストより出現回数の多い語は表1の通りである。

表1 出現回数上位語（総抽出語数2,330 異なり語数404）

抽出語	出現回数	抽出語	出現回数	抽出語	出現回数	抽出語	出現回数	抽出語	出現回数
日本語	111	読み方	16	形	8	文字	7	聞く	6
面白い	35	英語	13	日本人	8	カタカナ	6	話す	6
好き	35	中国語	13	発音	8	音	6	アニメ	5
日本	29	漢字	11	意味	7	感じ	6	興味	5
勉強	22	簡単	9	歌	7	少ない	6	使う	5
文法	20	字形	9	言語	7	他	6	単語	5
違う	16	響き	8	読む	7	文化	6	特別	5

抽出語リストにより出現回数が多い語が明らかになった後、その語がどのような文脈で使用されているか、上位語を検索語とし、KWICコンコーダンスにより記述詳細を抽出確認した。

なお、上位を占める「日本語」、「面白い」、「好き」、「日本」、「勉強」をKWICコンコーダンスで抽出確認したところ、「日本語/日本語の勉強は～だから面白い」「～だから日本語が好き」で使用されていたため、本調査の目的である「日本語そのもの」の「興味」は何かという対象を明らかにする語ではないとし、出現回数の上位語は名詞のみを検索語とした。

4.2 興味の分類

4.2.1 文法に関する興味

「文法」を検索語とした記述の詳細を以下のように分類した。香港の公用語である中国語や英語をはじめ他の言語との比較をし、文法に関して興味を持っている。また、より具体的に助詞や動詞等の変形といった例を挙げ特異性に興味を持っていると見られる。その特異性は生徒の探究心などを刺激した興味へとつながっている。

表2 文法に関する興味

特徴	記述内容
母語や他言語との比較 (相違点)からの興味	<ul style="list-style-type: none">・日本語の<u>文法</u>構造は英語と違う。・日本語の<u>文法</u>は他の言語と違って特別だ。・日本語の<u>文法</u>はとても特別で、中国語とは違う。・日本語の<u>文法</u>は英語や中国語の<u>文法</u>と比べて面白い。
特異性からの興味	<ul style="list-style-type: none">・日本語には独立した<u>文法</u>系統、システムがある。世界の他の大部分の言語は同じような系統だ。・日本語は独自の<u>文法</u>を使っていて、日本語を勉強したいととても思わせる力がある。・<u>文法</u>はいつも同じではない。たとえば「で」は<u>文法</u>の意味が違う。それで、知りたいことを調べることは尽きない。・日本語の変化がたくさんあり、違う<u>文法</u>と違う語句の組み合わせでいろんなパターンを作り出せる。・日本語の<u>文法</u>に探索性があるから日本語が好きだ。

4.2.2 音に関する興味

「読み方」、「響き」、「感じ」の検索語から以下のような分類とした。本調査における自由記述の内容には文脈がなく、「読み方」は「読音」という中国語が多くみられたため、日本語のことばや文章を読みあげ、音にした場合の興味と分類した。日本語の音、響きから「静か」「やさしい」「気持ちがいい」といった感覚的な記述もみられた。

表 3 音に関する興味

特徴	記述内容
読み方（音）からの興味	<ul style="list-style-type: none"> ・私が一番好きなのは、日本の<u>読み方</u>。 ・<u>読み方</u>がおもしろい。 ・日本の<u>読み方</u>は感情がとても伝わる。 ・日本語の<u>読み方</u>とアクセント（語気）も中国語とはとても違う。おもしろい。 ・日本語の文字と<u>読み方</u>はとても面白い。 ・日本語の<u>読み方</u>はとてもとても響きがいい。 ・中国語の漢字を日本語の<u>読み方</u>、音で話すのは面白い。
響き（音）のよさからの興味	<ul style="list-style-type: none"> ・発音は<u>響き</u>がとてもいい。 ・読み方は<u>響き</u>がよい。子どもの日本語の歌で勉強する。 ・日本語の音の<u>響き</u>がよいから好きだ。 ・日本語を話す時、歌を歌うような音調で、<u>響き</u>がよい。 ・日本語の音の<u>響き</u>がよいから好きだ。私にとって、日本語の歌は、北京語や英語など他の言語のことばの歌と比べてもっと好きだ。
特異性（音をもたらす特別な感覚）への興味	<ul style="list-style-type: none"> ・日本語で好きなのは流行語が絶えず更新されていることだ。日本語はしずかな<u>感じ</u>を与える。 ・文全体を読むとき、流暢な<u>感じ</u>がする。 ・日本語の発音もおもしろいし、声を出して読んでいるとき、その音もやさしい<u>感じ</u>を与える。 ・聞いたり、読んだりするとき、気持ちがいい<u>感じ</u>になる。 ・日本の単語が好き。一つ一つ覚えていくと、日本語がもっとわかるような<u>感じ</u>がする。

4.2.3 文字に関する興味

「字形」、「漢字」、「中国語」、「英語」の検索語から以下のように分類とした。字形そのものをはじめ、特に漢字に関する記述は、中国語の漢字と比較し類似点より容易さを挙げていたのは、香港など漢字圏での特徴といえるであろう。また、カタカナについては、英語の単語がカタカナで表され、その音は英語での発音、時には意味までも異なることに興味を示している。

表 4 文字に関する興味

特徴	記述内容
<p>特異性（文字）からの興味</p>	<p>日本語の<u>字形</u>は簡単で、書き方は難しくない。 字数は少なく、50音だけで、違う意味を表現することができる。 だから日本語は面白い。 日本の<u>字形</u>が好き。きちんとしている感じだ。心身ともにすっきりする。 日本語の<u>字形</u>はおもしろい。日本語の<u>字形</u>がきれいなので好き。 日本語の<u>字形</u>はよい。 ・私は日本語の<u>字形</u>がすき。“あいうえお”のように全部まるく、 <u>中国語</u>と違う。でも、<u>漢字</u>があるので、とても不思議でおもしろい言語だ。3つの文字があるのは、日本語だけである。</p>
<p>母語と比較した相違点や類似点（漢字）からの興味</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・<u>漢字</u>はとても簡単。きれいにかける。 ・<u>漢字</u>があるので、早く上手になれる気にさせてくれる。 ・文章の中に<u>漢字</u>もあって、カタカナの字形も格好いい。 ・日本語にはひらがな、カタカナ、<u>漢字</u>があって表現方法が多くある。 ・日本語の<u>漢字</u>は<u>中国語</u>と似ているから日本語が好き。 ・日本語の<u>漢字</u>が好き。それは<u>中国語</u>の<u>漢字</u>とほとんど同じで、分かりやすい。 ・日本語の<u>漢字</u>は<u>中国語</u>と同じでわかりやすい。でも、意味が違うので面白いと思わせてくれる。 ・日本語には3つの書き方がある。ひらがな、カタカナ、<u>漢字</u>がある。<u>中国語</u>はずっと<u>漢字</u>だけである。
<p>英語との比較（カタカナ）からの興味</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・日本式<u>英語</u>はカタカナを使って読める。 ・日本式<u>英語</u>はとてもとても笑える。 ・日本語で<u>英語</u>を読むのも面白い。 ・日本式<u>英語</u>は面白い。読んだら笑えて、とてもかわいい。聞いてとても面白い。

5. 考察と今後の課題

香港の高校生の日本語興味について「文法」、「音」、「文字」の3つのカテゴリーに分類した。本調査分析結果は、佐藤(2017)が分類した4つのカテゴリーのうち3つと同じ結果となった。もうひとつの「表現」というカテゴリーに関する記述もあったが、本調査において「表現」を1つのカテゴリーにするほど具体的な記述はなかった。さらに、その興味の詳細は「母語や他の外国語との比較（相違点・類似点）からの興味」、「特異性からの興味」、「音からの興味」、「文字からの興味」と特徴を分類した。

筆者は、日本語の文法学習に関して、助詞の多様な用途や動詞の活用が覚えられず日本語学習への興味や意欲をなくしてしまった学習者をこれまで多く見てきた。しかし、本調査では、学習者としては面倒だが覚えなければならぬ、教師は学習者に覚えさせなければならぬと思っている文法規則等に対して面白いといった記述があったことは、教師にとっては新たな気づきになるのではないか。佐藤(2017)は、大西(2010)が示した「挑戦志向」と関連し、複雑さや難しさが日本語学習への動機づけにプラスに作用する可能性に言及し、複雑さや困難さに挑戦することを生かす学習内容や活動の設計の必要性を述べている。香港においても同様に、類似性による容易さからの学習活動だけでなく、複雑さや困難さ、または特異性への挑戦を学習活動の中に取り入れてみることもよいのではないか。さらにその挑戦には思考することを加えることで、積極的な学びにつながる可能性があると考えられる。文字学習に関しては、漢字圏である香港の学習者にとって漢字学習は比較的容易だといわれ、カタカナは学習が困難だと聞かれる。ファストフードの名前、飲み物などのカタカナ語を教師が読み上げ、学習者は書き取るといったディクテーションも挑戦のひとつかもしれない。しかし、その記憶の産出のような活動だけで学習者の興味を持続させ、積極的な学びにつなげることは難しいように思う。単語の音からだけでなく、文脈からヒントを得てカタカナ語を産出する活動も挑戦といえよう。また、文法学習では母語との相違点に注目させつつその規則を探らせるといった方法もひとつの挑戦であろう。

また、田中(2015)の示した「日常関連型興味」も学習活動に取り入れることも提案したいが、その際は、興味の深化を促すプロセスの重要性を述べている(田中2013)。まず、発見や不思議さに気づくことができれば「おもしろい」と感じることで興味が喚起される。それから知識が蓄積されて、自分の身近に

関連があることに「役に立つ」などの価値認知が起こり、さらにその価値を実感することで学習の効果を上げることができる。いきなりその学習価値を強調するために、日常関連での例を示すだけでは、もともとその学習に興味が高い生徒にしか効果がない。たとえば授業のはじめに「この文法を勉強すると、漫画が読めるようになります。だから頑張りましょう」と目標を提示するだけでは、学習自体にあまり興味を持っていない生徒に対してモチベーション、学習効果を上げるには不十分だということであろう。もう一步活動等を通して「実際に漫画が読めた」と実感するまでが不可欠だ。

JFL 環境下、制限のある授業時間内ではあるが、日本語学習への興味、モチベーションを持続させるためにも学習者の興味を生かし「挑戦する」、「日常との関連価値を実感する」ことができる授業内容や学習活動の取入れを検討することを提案したい。一方で、本提案が理想論とならないために、実践に向けた具体的な活動内容の検討と社会人学習者への活用方法を今後の課題としたい。

参考文献

- 宇田川洋子・李夢娟・李澤森・劉礪志（2014）「香港の日本語学習者減少の要因－調査報告－」『日本學刊』第17号,107-120
- 大西由美（2010）「ウクライナにおける大学生の日本語学習動機」『日本語教育』147,82-96
- 木山登茂子・中野貴子・周宏陽・上田早苗・望月貴子・蘇凱達・青山玲二郎（2011）「2010年香港日本人者背景調査報告」『日本學刊』第14号,176－195
- 国際交流基金（2013）「日本語教育機関調査・2012年 海外の日本語教育の現状」
- 国際交流基金機関調査<<https://www.jpf.go.jp/j/project/japanese/survey/result/>>（2018年12月10日）
- 佐藤梓（2017）「JFL 環境における日本語学習者の『興味』:メキシコ人日本語学習者を対象に」『北海道大学国際広報メディア・観光学ジャーナル』24,91-108
- 田中瑛津子（2013）「興味の深化を促す授業方略の検討－ポジティブ感情と価値の認知に着目して－」『教授学習心理学研究』9,12-28
- 田中瑛津子（2015）「理科に対する興味の分類－意味理解方略と学習行動との関連に着目して－」『教育心理学研究』63,23-36
- Hidi, S. (1990) Interest and its contribution as a mental resource for learning. *Review of Educational Research*, 60, 549-571
- 香港考試及評核局<<http://www.hkeaa.edu.hk/en/hkdse/introduction/>>（2018年12月10日）
- 山下直子・梁安玉・劉礪志・李澤森・李夢娟（2016）「2015年香港日本語学習者背景調査報告」『日本學刊』第19号,185-197